

令和4年度指定管理業務に関する事業報告書（デイ）

施設名 京都市伏見老人デイサービスセンター

1 施設の管理運営

- ・介護保険法に基づく通所介護事業及び介護予防通所介護事業の実施
- ・京都市総合事業（介護予防・日常生活総合事業）の実施

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

2 事業実施内容

- 【老人デイサービス事業】
- ・通所介護・介護予防通所介護事業実施とこれに伴うサービス提供（食事・入浴・機能訓練・レクリエーション・送迎・相談業務などの提供）
 - ・日曜日と年末年始（12/31～1/3）を除く毎日開所
 - ・通所介護計画に基づく個々の利用者の生活支援を目指したサービス提供
 - ・利用者の興味・関心に即して、選択できるレクリエーションを提供し、グループ活動の実践による心身機能の向上、生活の充実のための支援を行うとともに、集団でのレクリエーションを提供することによる、協調性の助長や仲間意識の醸成を図る。また、在宅生活を安全かつ継続的に送れるよう身体的、精神面での支援を行う。
 - ・個々の利用者に対する相談援助と関係機関との協議
 - ・サービス向上に向けた取組として、ユーザーアンケートの実施と第三者評価事業の定期受診職員に対する内外研修の積極的な取組

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

（参考）自主事業内容

3 サービス提供状況

【職員体制】
管理者：1名 生活相談員：2名 看護師：6名 機能訓練指導員：3名
介護職員：9名 運転手：4名 配膳・調理補助員：2名

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会においては、本会経理規程により、100万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、100万円未満の委託業務に関しては、随意契約としています。一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っています。

5 施設の利用状況(施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1) 延べ利用人数(実績値)

9353 人

(2) 実利用者数(実績値)

1065 件

(3) 収支実績

ア 令和4年度収入状況(単位:円)

介護保険収入	97,704,182
利用料収入	5,955,884
委託料収入	0
補助金収入	0
寄付金収入	0
雑収入	0
その他	3,983,082
収入計	107,643,148

イ 令和4年度支出状況(単位:円)

人件費	72,268,930
事業費	15,274,390
委託費	0
小額修繕費	0
その他	20,093,492
支出計	107,636,812

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

令和4年12月に全利用者を対象とした、法人統一のアンケートを実施。センターより必要に応じ説明の上配布し、無記名で法人事務局宛の返送による回収を行い、回収率は57.5%であった。

(2) 利用者満足度把握の結果

【送迎】	満足: 72.0%	やや満足: 18.0%	やや不満: 4.0%	不満: 2%	無記入: 4.0%
【入浴】	満足: 68.0%	やや満足: 17.0%	やや不満: 2.0%	不満: 0%	無記入: 13.0%
【食事】	満足: 74.0%	やや満足: 11.0%	やや不満: 6.0%	不満: 0%	無記入: 9.0%
【レクリエーション】	満足: 52.0%	やや満足: 22.0%	やや不満: 6.0%	不満: 0%	無記入: 20.0%
【機能訓練】	満足: 54.0%	やや満足: 24.0%	やや不満: 4.0%	不満: 0%	無記入: 18.0%

(3) 意見等への主な対応状況

不満コメントが細かく記載されており、ひとつひとつの案件に対して丁寧に改善に向けた対応方法を事業内で話が出来た。また、家族からの質問なども多くデイのサービスについて深く興味を持ってくださっていることもわかった。丁寧に答えることでアンケートへのコメントの記入の量が増えたことは事業所として有難いことであるとする。

7 その他特記事項

(1)

○地元小中学校の福祉体験やチャレンジ体験、また企業の新入社員研修の一環としてのボランティア実習受け入れなどを積極的に行い、次代の福祉活動の担い手づくりや福祉意識の向上に、社会的使命として取り組んでいる。

○老人福祉センター利用者有志でのボランティアサークル「ひょうたん」や伏見区老人クラブ連合会から、日常的・組織的にボランティアとして関わっていただいている。職員のみ感覚による閉鎖的な運営に陥ることのないように、日々ボランティアミーティングを行い、ボランティアからの視点で全体を見ていただいております。常に風通しのよい運営を心がけている。また、「ひょうたん」については、総会の場などにお時間をいただき、会員の皆さんとの意見懇談などを行い、その活動の充実を図っているところである。このような組織の姿勢がボランティアには親身になってご支援をいただいているなど信頼をいただいている。あわせて、現在はコロナ禍で自粛されているが、老人クラブの各サークルや地域女性会のご支援をいただき、踊りや合唱などの慰問を定期的にいただいていた。状況が落ち着いた段階で改めて依頼していく予定

○施設の広報誌として「伏見デイだより」を毎月発行および、一般の方向けの施設パンフレットを発行し、事業所の具体的な取り組みや方針、サービス内容等をよりわかりやすくのせ、地域に広めていくことにより、施設の開放性を維持している。広報活動として今年度新たに実施したのは、デイの中をオープンに「見える化」し、一般の来訪者がデイの中の様子を良く見学できるようにしたこと、利用についての問い合わせが多くなった。デイの利用者も明るくて広く感じるという声もあった。「デイの見える化」は大きなメリットとなったと感じる。

○館内に伏見区社協が設置されており、地域に関する情報を共有できる事、またデイサービスとして近隣地域の拠点となれるよう学区の会合などに参加することで存在感をアピール出来るなどの独自の強みを持っている。地域交流によりすこやか学級などではデイの職員が講師役にて感染予防対策の講義活動を行ったり、区社協の受託事業である「地域安心支援事業」の対象者が生活における必要なサービスとして相談を受け、利用に繋げるなど区社協との連携をもち、社協としての理念にそった活動が行っている。

(2)

○自身の取り組みの見直しは積極的に行い、職員からのアイデアや気付き、また利用者からの意見などを反映させている。可能な改善は積極的に行い、滞った雰囲気にならないよう努力している

○利用者がより本人らしく、生活に対する意欲を持ち続けてもらえるよう、ご本人の強みを理解し、その方々にあった活動や、身体機能を維持向上できるような機能訓練メニューを日々考察し、在宅生活を安全にかつ意欲的に送れるような支援を行える職員育成を継続して行っております。具体的にはアセスメントシートの更新作成に全職員に担当を割り振り2カ月に1度の評価作業を取り組ませています。

○法人で取り組んでいる「チャレンジ就労体験事業」は積極的に受け入れを行い、その成果を上げているところである。特に、介護職を希望する体験卒業者を職員として採用しているなどしており、就労自立の一助を担っている。加えて障がい者雇用に関しても積極的に迎え入れられるような職場環境の構築と、業務内容を日々考察しております。

8 評価（指定管理者自己評価）

昨年度に引き続き、コロナ禍の事業運営は利用者や職員に大きな負担を背負わせたと感じる。感染予防対策を講じながらの運営ではあったが、そんな中での業務改善やサービス向上の検討、職員育成や意識の向上を目的とした取り組みのおかげで、当センターの稼働率が安定したと評価できる。コロナによる事業中止により、減収する事など職員一人一人が危機感をもって業務に向き合えるようになったのがこの結果の大きな要因だと考える。もちろん現状をより良くする為の取り組みも積極的に行い、今以上の結果を残せるよう、地域の福祉拠点として発揮できる事業所を目指す。職員育成と同じく職員採用の面でも、障害を抱えた人材についても、活躍できることでやりがいを持ってもらえるような環境を持たせること、全職員が理解し風通しの良い職場環境を作ることも取り組んできた。良い結果やそうではない結果もあり、評価は難しいところではあるが今後も積極的に取り組んでいきたい。